



園行事の意味

7月25日に夏まつりを開催いたしました。猛暑の中での夏まつりで、皆さんにどうしたら楽しんでいただけるか悩みながらの夏まつりでしたが、参加された保護者の方は、お帰りの際、「楽しかった」と言ってくださったり、年長児のおばあちゃん、「今年最後だから、来てみました」と言ってくださったり、卒園児は、帰りながら「たのしかった」と叫んでいました。園児のご家族だけではなく、卒園児や地域の皆さんもたくさんおいでくださり、地域の皆さんが集う場所がすいこうなのだと感じると、暑い中でも夏まつりを開催し、季節ごとのそれぞれの行事は、園児だけのものではないのだと実感しました。ある卒園児の保護者に「一人っ子だから在園児はいないのに、来てしまいました。また来てもいいですか」と聞かれました。「もちろん。これからもお知らせしますので、おいでください」と答えました。

これからもすいこうの行事は、いろいろな方との再会を喜び合い、安心して楽しく過ごしていただける行事でありたいと思いました。



絵本からのメッセージ



平和に関連する絵本を少しですが用意しましたので、一部紹介します。事務室前に置いていますので、親子で読んでみてください

かわいそうなぞう



戦争は、動物たちにもつらい思いをさせたのです。

やくそく



広島で被爆し、生涯にわたって平和を訴え続けた児童文学作家那須正幹さんの物語です



令和 8 年 8 月の園だより



ワクワクドキドキお泊り保育

7月3、4日に年長さんは、姉妹園のくまの・みらい保育園の年長さんと一緒に『似島歓迎交流センター』でお泊り保育を行いました。例年『野外活動センター子ども村』を利用していたのですが、熊の目撃情報が多発していることを考慮して、急遽行先変更となりました。初めての場所でしたが、子どもたちにとっては、どこでも初めてなので楽しみでしかないお泊りであったことでしょう。職員は、下見をしたものの「着いたら荷物をどうするか」、「暑すぎたらどこに避難しようか」などと、考えていたら眠れないこともあったようですが、そこはプロの保育者集団、「子どもたちにとってどうすることが一番か」と考えたら、答えはおのずと決まり、職員間の連携も速やかで初めての場所でもスムーズに過ごすことができました。子どもたちは、ポイントラリー、芝滑り、ゲーム大会、食べ放題ビュッフェなど全ての活動を全力で楽しみ、そして今年もたくさんのドラマがありましたので、皆さんにもお伝えします。

ドラマ1 久しぶり～

年長さんは、6月にくまの・みらい保育園のお友だちと交流会をしていました。その日は、一緒に遊んだり、給食を食べたりして過ごし、「お泊り、楽しみだね」と言って別れました。当日、芝すべりをしているところに熊野の女の子が「Eちゃんはどこにいますか」と言ってきました。その様子に気づいたEちゃんは、走ってきて「久しぶり～」と言いながら、抱き合い、一緒に芝滑りを始めました。その姿は、小さなギャルのようでとってもかわいく、ずっと見入ってしまいました。虫好きの男の子は、自分が捕まえた虫を見せ合ったりして、再会を喜び合い、一緒に虫を探す様子がとてもかわいく、誰とでもすぐに仲良くなれるみみょうグループの子どもたちは、素敵だなと感じたのです。

ドラマ2 リーダーさん

お泊り保育のグループリーダーさんは、グループごとに集まったときに点呼をとったり、いろいろな物を配ったりなどの仕事内容を伝えたくて、立候補で決めています。どんな時も子どもたちの主体性を大切にしていますが、初めは、グループのメンバーを覚えられなくて、戸惑うリーダーさんがたくさんいました。グループ活動を増やしたり、リーダーさんが自信を持てるよう、しっかり褒めたりして当

日を迎えました。大丈夫かなと心配していましたが、グループで並ぶとき「僕のチームの〇〇ちゃんがない」と、メンバーを探すリーダーさんの姿がありました。リーダーを決めた時とは見違えるようで、その姿がとっても愛おしく思えました。

似島での一泊二日、熱中症対策ゼリーを食べたり、木陰で休んだりしながら、子どもたちはよく遊び、保育者の話をしっかり聞いて、次への行動の準備をしていました。時折、わからなくなったら、「先生、手伝って」と言ってくる子どももいましたが、わからないことをそのままにしておくのではなく、助けを求めることはとても大切なことです。二日間子どもたちは、全力で楽しんでくれましたので、お迎えの保護者の皆さんを見た時の子どもたちの表情は、「一泊二日を僕は、私は、がんばった」と言う自信にみなぎり、ちょっぴりたくましく見えたのは、私だけではないと思います。その後の園生活でも自分のことは自分でやろうとしていたり、トラブルになりそうな場面では、お互いの話を聞いたり、協力し合って遊ぶ場面が増えたように思います。お泊り保育は、子どもたちにとって、1年生になるための登竜門のようで、ちょっぴり『親離れ』ができたのではないのでしょうか。同時に保護者の皆さんには、子どもを信じて見守るという『子離れ』をするきっかけにもなったのなら幸いです。

平和への祈りが深まる8月になりました。私は毎日平和公園の前を通過して出勤しています。この時期、日に日に平和祈念式典のための白いテントが増えています。戦争を知らない私たちは、「暑い暑い」と言いながらも水あそびをしたり、夏祭りを楽しんでいます。争いが起こっている国の子どもたちは、ちょっとした物音におびえ、遊ぶことさえ十分ではなく、いつも不安な思いをしていることでしょう。笑顔なんてできるわけもなく、小さな胸は張り裂けそうなのはです。私のなかでは、「今日も子どもたちと楽しく過ごし、子どもたちの笑顔を見ることができた。」ということが当たり前なのですが、それが当たり前であることに感謝し、これからもずっと続くことを願っています。そして、子どもたちの笑顔がいかに尊く、その笑顔を守ることがどれほど大切なことなのか感じながら過ごしていきたいと思っています。

園長 上原玲子

すいこう認定こども園

子育てメッセージ

6月21日28日と2週にわたり、テレビ寺小屋で教育評論家、親野智可等（おやのちから）氏が『親子が笑顔になるすい子育て』『自己肯定感を高める親子の関わり』という興味深いテーマでお話をされていました。親野智可等という名前だけあり、保護者にとって取り組みやすく、わかりやすい内容でした。親野智可等氏の本名は、杉山桂一。公立小学校で23年間教師を務めている際、親が子どもに与える影響の大きさを痛感され、教師としての経験や知識を子育てに役立ててもらいたいとメールマガジンなどでわかりやすく伝え、様々な場所で講演をされています。

お話の中に「親子が笑顔になる方法」がたくさん出てきました。まずは、**保護者が常に笑っていること**。子どもは笑っている保護者を見ると、「自分は愛されている」と感じるのです。笑顔で話すと子どもも心を開放し、親の言葉に耳を傾けると話されていました。確かに子どもたちが描く家族の絵は、いつも家族みんな笑っています。他にもいろいろな子育てヒントをお話されていますので、また、機会を見つけてお伝えしますね。



へいわとせんそう



平和な日々と戦争の日々を両ページで見比べるわかりやすい絵本です

ぼくがラーメンたべるとき

他の絵本とは違った角度から戦争と平和について伝えてくれています。

